

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は15名ですが、議事の都合により、本日5人、24日5人、25日5人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。所定の時間内に終わるよう質問、答弁とも簡潔に要領よくお願いをいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、通告外質問にならないようにご協力をお願いいたします。

それでは、通告順に発言を許します。

宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。〔11番 宮島 宏君登壇〕

○11番（宮島 宏君）

おはようございます。翠新クラブの宮島 宏です。

今回の一般質問では、2つの案件について、市長と教育長のお考えを伺います。

1つ目は、市の編さんについて、2つ目は、相馬御風の還住110周年についてです。

1番目の市史の編さんについて伺います。

市史の編さんは、時間の経過とともに散逸し、忘却されていく資料や情報を整理・保管し、書籍などのメディアによって後世に伝えることで、郷土愛の醸成、地域PRなど、地域振興や人材育成にも活用できるものです。このため市史の発行は、自治体の基本的かつ重要な事業とされています。

今世紀になって糸魚川市では、一市二町の合併、世界ジオパーク認定、北陸新幹線の開業と北陸本線の民営化、駅北大火、コロナ禍、来海沢地滑り、えちご押上ひすい海岸駅の開業、ヒスイの国石と県石への認定、能登半島地震、大の里関の横綱昇進など、次世代に継承すべき多くの歴史的な出来事がありました。

市史の編さんについて、以下伺います。

(1) 糸魚川地域では、1976から84年に発行された「糸魚川市史」の続編として、2000年までの市史が「糸魚川市史昭和編」として2004年と2006年に発行されましたが、合併に至る経緯や合併後の歴史は含まれていません。今世紀になってからの前述のような歴史をつづった糸魚川市史の発行の必要性と発行予定時期について、市長の見解を伺います。

(2) 能生地域では、1986年3月に発行された「能生町史」の後は、地域の歴史を総合的にまとめた公的書籍がありません。このため柵口の雪崩災害、北陸自動車道の開通、マリンドリーム能生、シャルマン火打スキー場、グリーンメッセ能生などの開業、市町合併に至るまでの経緯について、総合的に詳述したものがないのです。このままですと「能生町史」以降の能生地域の詳しい歴史を後世に伝承できず、永遠に失われかねません。この状況についての市長の見解を伺います。

(3) 青海地域では、1966年に「青海―その生活と発展―」が発行され、1973年には「続／青海―新生への歩み―」が発行されました。合併前の2004年には「青海ふるさと事典」が発行されていますが、以前の町史にはなかった内容、例えば北陸自動車道の親不知インターチェンジ開設、天然記念物のヒスイの毀損事件と運搬、梅海新道、親不知ピアパーク、マイコミ平、玉ノ木地滑り災害などは記述がないか、あっても簡単な記述にとどまっています。このままですと「続／青海」以降の青海地域の約半世紀もの間の詳しい歴史を後世に伝承できず、永遠に失われかねません。この状況についての市長の見解を伺います。

2番目です。御風還住110周年の取組についてです。

1916年（大正5年）2月、東京の文壇で活躍していた相馬御風が「還元録」を発行し、翌月、糸魚川に戻ったのは、御風が32歳のときでした。したがって、本年は「還元録」発行と御風還住から110周年の区切りの年となります。また、御風の良寛研究や短歌の会の「木蔭会」も還住の年から始まりました。

御風の人生や文筆活動の中では、還住は極めて大きなターニングポイントであり、当市での短歌の隆盛やヒスイの発見も還住後の御風によってもたらされたものです。したがって、当市にとって、還住年は生没年の区切りよりもむしろ重要なものと言えるでしょう。以下伺います。

(1) 生誕140周年や没後70周年には各種の記念事業が行われましたが、還住110周年に合わせた事業はどのようなものを予定していますか。

(2) 御風の還住を、子ども一貫教育基本方針の基本理念の一つである「ふるさと糸魚川をよく知り、郷土を愛する子どもを育てます」で、どのように伝えてきましたか。

(3) 書籍「御風聴聞記」の著者は、還住後の御風と同居していたため、他の文献にはない多くの貴重な記述があります。しかしながら、自費出版であるため広く流通しておらず、その存在はあまり知られていません。「御風聴聞記」を糸魚川市教育委員会から何らかのメディアとして発行する考えはありますか。

(4) 御風の還住は、現代風に言い換えるとすればUターンであります。一人雑誌「野を歩む者」を自ら執筆、編集、発行していた取組は、現代のSNSに通じるものと言えます。このことや、「還元録」にある「力強く人間的調和を得ている健全なる凡夫の生活」を糸魚川への移住定住のお誘いに活用する考えはありますか。

以上、1回目の質問となります。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

それでは、宮島議員のご質問にお答えいたしたいと思えます。

1番目の市史編さんにつきましては、合併前の3地域において発行時期が異なっておりますが、各地域における歴史について後世に伝えるためにも必要と考えており、今後、検討してまいります。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁になりますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

    霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

    おはようございます。

    宮島議員のご質問にお答えいたします。

    2番目の1点目の御風還住110年事業につきましては、8年度は相馬御風を題材として制作中の映画とタイアップしながら、110年を冠とした企画などを実施したいと考えております。

    2点目の相馬御風の還住の伝え方につきましては、社会科副読本等を活用する中で、郷土愛の醸成につながるよう努めております。

    3点目の御風聴聞記につきましては、現時点では市で発行する予定はありません。

    4点目の移住・定住への活用につきましては、御風が糸魚川へ還る生き方が映画のテーマとつながっていることから、映画の周知により対応してまいります。

    以上です。

    〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

    宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

    ありがとうございました。

    私は、糸魚川に来て35年になります。人生の半分以上が糸魚川暮らしです。この地域に来て、糸魚川の方々からいろんなことを学び、感心し、驚いたことがあります。例えばマリンドリーム能生ですね、例えば高速道路のトンネルを造るときの土砂、フォッサマグナの時代の砂岩泥岩なんですけれども、それを再利用したすごいアイデアだなと思いましたし、それからカニや横丁ってありますよね、あれ最初の計画では段差があったそうなんです。それを地元の人たちに説明したら、場所によって、ただでさえ売上げが違うわけですよ。町民の意見を聞いて、同一平面上に修正したと。

    それから、越山丸も今の位置に置いてありますけど、大手の建設会社に見積もらせたら、とてつもない金額だったそうなんです。それを能生町の人たちのアイデアで、非常に低価格であるような固定ができたという、そういったことも伺いました。ただ、今私が申し上げたことは、私の頭の中にありますけども、公的な文書にはなっていないわけですよ。

    それから、青海のインター、親不知インターですけど、あれも北陸自動車道だった当初は、青海町の中にインターチェンジなかったそうなんです。ずっとほとんどトンネルで、朝日に抜けていく。青海町の人たちは、それではメリットがないじゃないかということで、粘り強く掛け合って、海の上を通る高速道路を造ってもらい、親不知インターを造った。これもすばらしい歴史ですよ。私はヒスイの研究者ですけれども、青海川の上流にあった100トン以上のヒスイを海まで運び、さらに親不知まで運んだわけです。こんなことも、私は、よくやったなと思います。途中には、砂

防堰堤とか橋もあるわけですね。そこを降りたりくぐったりして行った。そういう歴史を伝えたいんですよ、残してほしいんです。

それから、今日は蘆本先生がいらっしゃるので、小野 健さん、梅海新道で有名ですけど、最初に作った新しい山道は、サワガニ新道ですね。サワガニ新道というのは、梅海新道とは全く関係ない位置に造りました。1年でできるようなスケジュールでつくってるんですよ。なぜかというところ——小野 健さんから聞きました。最初から長大な梅海新道に手をつけると、もう先はなかなか結果が出てこないですね。だけど1年で結果が出るサワガニ新道であれば、自信をつけさせられる。そういうね、すごく巧妙な人心をつかむ技術、それを聞いてね、すごいなと思いました。

岳友会のホームページには、そういったことが書かれてるかもしれませんが、公的な市史にも町史にもないわけですよ。これもぜひ残していただきたいなと思います。

質問なんですけれども、従来の町史、それから市史を作ったときに、様々な文献、資料が収集されたはずですよ。現在、それらの資料は、どのような状態になっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

おはようございます。

お答えいたします。

糸魚川市史の編さんをした、昭和編を編さんした資料については、今の市役所や市民図書館、また歴史民俗資料館のほうで保管をしております、能生、青海の編さん時の資料につきまして、詳細な内容は把握はしておりませんが、今各図書館、事務所、生涯学習センター等に資料のほうは保管しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

青海の事務所の前に巨大なヒスイがありますよね、46トン、あれ、なぜあそこに置いてあるかというと、これはどこにも書いてない情報ですが、本当は、きらら青海の中に入れてあったんですけど。ところが、あそこまで持ってきて入れようとしたら、入らないってことが分かったそうなんです。それで、やむなく外での展示になった。これもある意味失敗談ですけども、こういったものをやっぱり歴史に残してほしいわけです。

次の質問ですが、1市2町の合併がありまして、その後の行政文書、全ての行政文書を取っておく必要はないと思いますが、新しい糸魚川市を語る上で重要な資料というのものもあるはずですよ。そういったものの保管状況、それから行政文書以外にも、糸魚川市の歴史を語る上で大事な資料、写真ですとか文書とかあるわけですね。そういったものを糸魚川市は、今までどういう思想で、どういう考え方で、収集・保管をしているか、それを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えいたします。

今ほど言われるような資料は、歴史的価値のある文書、歴史的公文書ということで市役所のほうでも保管をしております。事務所であったりとか廃校になった学校等で保管をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

文書、ほとんど紙だと思しますので、ぜひデジタル化も進めてほしいと思います。

磯貝課長には申しあげましたけれども、妙高市、糸魚川と同じく2005年に1市1町1村の合併をしました。妙高市のホームページを見たところ、おととしから市史編さん事業に着手しています。今年度は、既に編さんの仕事を始めています。何年にこの本、何年にこの本、予算もスケジュールも全て書かれています。

糸魚川市では、駅北大火という未曾有の災害がありましたので、はっきり言って市史どころじゃなかったかもしれませんけれども、ぜひ妙高市に見習って、糸魚川の大事な歴史を残してほしいと思います。

市史については、以上です。

御風還住110周年の取組ですけれども、教育長からも映画の話が出ましたけれども、「ふるさとへ還るとき～相馬御風を訪ねて～」という映画が、撮影が始まりましたね。来年、公開予定となっています。映画のタイトルに「還る」という文字がありますよね。ふるさとに還るの「還る」この還るは、帰宅の「帰」ではないんですよ。還元録の「還」という字を使っていますよね。これは、たまたまその字を使ったのではなくて、映画ですから非常に考えた上で、深い意味を持って、この文字が使われてると思うんです。

私は国語の教師ではありませんけれども、「帰」と「還」という字、帰還という言葉ありますよね、熟語で。2つの漢字の意味は、ともに「かえる」です。だけど、調べてみると全然違う意味なんですよ、「帰」と「還」では。「帰」は、主に人が家や拠点に戻る日常的な動作に用いられる。ところが「還」は、故郷や、本来の場所や状態に戻ることに、より抽象的で深い意味に用いられるとなっています。

1916年に御風がふるさと糸魚川に戻った行為は、まさに「還」の字がふさわしい行為だと私は思いました。

ところが、これまで御風が糸魚川に戻った行為は、御風自身も「退住」、これは退いて住むという字を書きます。あるいは「帰住」、帰って住む。あるいは「退耕」、退いて耕すとしています。

また、糸魚川市の初代市長、中村又七郎さんという人ですけども、御風が糸魚川に戻った行為に対して、「隠棲」と言っています。これは、隠れてすむという字です。「棲む」すむという字は、きへんのほうですね。正宗白鳥も「隠退」と使ってるんです。隠れて退く。

この今紹介した熟語は、全部ネガティブな意味があります。ネガティブな印象を拭えません。

御風の研究者、糸魚川にもいらっしゃいますけれども、そのほとんどは、「退住」を使っています。一部の研究者は「帰住」を使っています。実は、私も著書や論文で、「退住」と「帰住」の両方を使ってきました。

今回、映画のタイトルを見て、考えました。御風が糸魚川に戻った行為は、1世紀以上の間、まちまちな言われ方、それから負の意味を伴った熟語で呼ばれてきました。映画の公開と、それから110周年を機に、糸魚川市として御風の糸魚川に戻った行為は、御風への敬愛の念を込めて、「還住」に統一することを市から発信してはいかがでしょうか、市長と教育長のご見解を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

嵐口文化振興課長。〔文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○文化振興課長（嵐口 守君）

おはようございます。

相馬御風、御風さんが糸魚川へ戻られた際の表現について、「還元」という意味を捉えました、非常に興味深いご質問であります。

議員おっしゃるように、当時の資料や経緯ですか、「退住」という言葉が用いられています。

一方で、製作中の映画のタイトルにもございますように「還」、戻るですね、還る、「還住」という言葉に肯定的で力強い、そういった意思が感じられます。「還住」という文字については共感するところがございます。

しかしながら、現時点では、市が公的な表現として「還住」で統一するという点については慎重であるべきかなと思っております。

と申しますのは、用語には、その時代の背景、または事実が刻まれておる場合があります。現時点で一律に変更するという事は、当時の文脈を逆に見えにくくするというおそれもございます。まず、映画の上映を機に、還元をはじめとする言葉とか、その共感が自然と広がっていくということが望ましい姿だと思っておりますし、見守っていきたいと思っております。「還」という特徴を捉えていただきまして、ご質問いただきました。これも文化の振興の一つだと考えております。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

ご答弁ありがとうございました。

では、お聞きしますが、今後、御風記念館のパネル、あるいは糸魚川市が発行する御風関係の本では、御風が糸魚川に戻った行為について、どのような言葉でそれを表現していきますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

嵐口文化振興課長。〔文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○文化振興課長（嵐口 守君）

やはり今、還元録の「還元」という言葉がございますので、そういったものを中心に、または映画でございます、「還る」というところを中心に表現していきたいと思いますが、やはり時によって御風さんが最初に使われた「退住」というのもあるかもしれません。やはり「還」という文字は、私も共感するところがございますので、そういったものを中心に表現してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

次は、御風聴聞記についてです。

御風聴聞記の著者は、御風の妻、テルさんと言うんですけども、テルが1932年7月に亡くられました。その翌々年の5月より、御風の看護や身の回りの世話をするようになったそうです。もともとその著者は、東京で看護婦をしていました。倉若ミワさんといいます。なぜミワさんが、御風の家に来たかという、御風が妻を亡くし、子育て、家事に追われて、非常に困った状態だったんですね。それを御風の周りの人たちが見て、御風の看護と身の回りの世話をしなさいということで、ミワさんが東京から呼ばれたそうです。

ミワさんは、もともとの役割は看護とか身の回りの世話だったようなんですけども、非常に勉強ができる人だったようで、接客とか清書など、あと文筆活動の補助もやっています。御風の、言わば秘書なんですよ。そういう役割を果たしました。御風は、ミワさんが家に入って亡くなる1950年までの間、1934年から1950年ですね、36冊もの本を著しています。亡くなる直前まで、「野を歩む者」を発行しました。こういった文芸活動は、ミワの献身的な協力なくしては、このような偉大な文芸活動はなかったと、私は思っています。

御風さんとミワさんは、二人三脚なんですね。よく「野を歩む者」は、一人雑誌と呼びます。公的には一人雑誌なんですけども、今回の質問に当たって私は、一人雑誌ではなくて、実は2人雑誌だったというふうに思うようになりました。

ところが、先ほどのご答弁でも、御風聴聞記の市からの発行というのは考えてないというようなお話でしたけどもミワさんの功績についてもですね、相馬御風記念館、あるいは糸魚川市のホームページでどういうふうに紹介されてるかって申し上げますと、僅か10文字、「倉若ミワ相馬家に入る。」この10文字があるだけです。それしかミワさんのことを紹介していません。

私が述べたように、ミワさんの御風に対する貢献、極めて大きい。ミワさんがいなかったら御風の命ももっと早くついでたかもしれない。あるいは文筆活動もあまりできなかったかもしれない。そう言ってもいいぐらいなんです。やっぱりミワさんのことを相馬御風記念館の展示にきちんと紹介していただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

嵐口文化振興課長。〔文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○文化振興課長（嵐口 守君）

御風さんの一生で、御風さんに関わる人は非常に多いところなんです。それらを踏まえて、全

体の展示を見直す中で紹介していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

御風の元には大勢の人たちが集いました。亡くなったときの弔問客は1,000人を超えたというのを聞いております。

ただ、ミワさんほど御風と過ごした時間が長い人は、少なくとも妻のテルさんが亡くなった以降は1人もいらっしやらないと思います。御風を一番近くで見て、感じて、それを聴聞記に書いてるわけですね。

それで聴聞記の、最後にしますけど、御風聴聞記って、ご覧になった方いらっしやいますか。あるいは、お持ちの方っていらっしやいます。御風聴聞記をお持ちの方っていませんか。いらっしやらないですね。

御風聴聞記というのは、還住前の御風、要するに東京にいたときの御風を書いた第1巻、それから糸魚川市に戻ってきてから、つまり還住後の御風を記した第2巻、この2巻があります。これどうして本になったかというのですね、ミワさんが原稿用紙に直筆で約300枚のものを残したそうです。それをめいの吉崎志保子さんという人に送って、ぜひこの私の原稿を書籍にしてほしいというふうに託したそうなんです。この本は、公的な機関、あるいは出版社から出されたものではなくて、めいの吉崎志保子さんが、自らワープロで打って、それで印刷したものを版下として自費出版したんですよ。ですから、ほとんど流通していません。

私が調べたところ、蔵書している図書館は、県内では糸魚川市民図書館、あと上越市立図書館、県立図書館の3館だけ、新潟大学とか上越教育大学にもありません。ほかは、国立国会図書館、それから倉敷市立図書館、なぜ倉敷にあるかというワープロで打った吉崎志保子さんが、岡山で在住だったからだと思います。それから後は日本近代文学館、あともう一つは人間文化研究機構国文学研究資料館、これだけなんです。何と早稲田大学にすらない。これが、こういう本はね、内容が取るに足りないものだったら、糸魚川市として出す必要はないと僕も思います。

ただ、吉崎志保子さんの後書き、御風聴聞記の後書きに書いてある文章を見て、これは糸魚川市として、これを風化させてはいけないと私は思いました。何て書いてあるかというと、「この著書は、御風への賛歌である。この著者しか知らず、この著者しか書けない大事な記述が多々ある。聴聞記によって、御風という人格に一步も二歩も近づけたことを感慨深く思う。」と書いています。御風聴聞記の文献としての高い価値をですね、的確に表現した文章だと、私はこれを読んで本当に涙が出るぐらい感銘を受けました。

御風聴聞記は、このまま放置すると、歴史の表舞台に出ることなく消滅してしまう可能性があります。地域の文化の継承を担う教育委員会は、このような状況にならないように努める必要があるのではないのでしょうか。ご見解を教育長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

嵐口文化振興課長。〔文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○文化振興課長（嵐口 守君）

御風聴聞記は、まずは歴史民俗資料館にありまして、保管をさせていただいております。市民図書館でもご覧いただけますけれども、自費出版でございますので、おっしゃるとおり部数が非常に少なくなっております。最終的にはおっしゃるとおりの国立国会図書館でございます。

このような希少図書でありますけれども、慎重に保管されておりまして、それが少しでもよい状態で後世に引き継ぐということが、歴史民俗資料館や図書館の役割だと考えています。

しかしながら、その他のメディアによる保存、その方法について試行錯誤しながら実施してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

オリジナルは、大変貴重なので一般に貸出し、今、市民図書館は一般に貸し出す状態になってますけれども、できれば禁帯出扱いが、私は適切だと思います。

私が望んでるのは、いわゆる復刻版の発行、あるいは御風とミワを特集したような本、そういったものがいいと思うんですね。例えば蛭子健治さんの本には、御風さんとミワさんが、御風宅の前で並んで写ってる写真が出てます。資料館にはそういった写真が多々あるんですよ。ただ、門外不出というか、一般には公開されてこなかった、そういうものです。蛭子先生は、御風記念館に関わってらっしゃいましたので、糸魚川市教育委員会の許可を得て、そういった本で公開したと書いてあります。ぜひですね、歴史を隠すことなく、糸魚川の偉大な御風さんですから、それはぜひご一考いただきたいと思います。

今、私、もうこれで終わりますけれども、市長とか教育長、私の話を聞いていただいた上で感じるところがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えさせていただきます。

この一般質問の題をいただいて、私自身も還元録、また映画の撮影、今お話しになった聴聞記ですかね、それについて、非常に貴重な財産であるなというふうに考えております。今、課長も答弁したように、今後このものについては自費出版という経緯を踏まえた上で、どういう形で残していけるのかは検討の価値があるというふうに考えておりますので、ぜひ今後また検討の中身に、こちらのほうにげたを預けていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

宮島議員から、御風聴聞記がいかに貴重な財産であるか、そして、限られた冊数しか残っていないというような部分のところもご提示いただきました。改めて御風聴聞記の大切さ、そして今後どのような形でもってそれを保存し、活用していくのかというふうな部分の提言も含めて、復刻版とか、あるいは再販とかというふうな部分のご提示もいただきました。今現在、教育委員会のできることは、先ほど課長が話しましたように、やっぱり保存というふうな部分のところ、取扱いという部分については慎重に進めていくと同時に、電子データ化をどのような形でもってそれを実現させていくか、それを最優先な取組の一つとして位置づけたいなというふうにご考えています。

書物そのものの復刻というふうな部分については、いろんな部分の課題があらうかというふうに思いますので、検討課題というふうな形でもって受け止めさせていただきたいというふうにご考えています。よろしくお願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

これにて、私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

ここで、10時45分まで暫時休憩といたします。

〈午前10時37分 休憩〉

〈午前10時45分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、池田七菜議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

池田議員。〔1番 池田七菜君登壇〕

○1番（池田七菜君）

糸魚川の未来を魅せる会、池田七菜です。

発言通告書に基づき、一般質問をさせていただきます。

1、通学路の除雪について。